

科目名	構音障害Ⅱ			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	30回	時間数	60時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科2年		必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
構音障害の講義・演習を通じて、正常の呼吸・発声・構音運動の理解と神経・筋病変に起因する構音障害の特徴、その発現メカニズムについて学ぶ。								
〔授業全体の内容の概要〕								
呼吸・発声・構音の評価・分析方法、医学的治療法、訓練プログラムの立案および訓練・指導の実施の方法について習得する。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための基礎を習得する。								
回数	講義内容							
1	音声学的基礎、構音運動							
2	正常構音の発達							
3	構音障害の種類および機能性構音障害とは							
4	構音と構音運動の観察（1）							
5	構音と構音運動の観察（2）							
6	発達段階での構音の特徴、誤り音の種類							
7	構音検査							
8	構音の聴取・誤り音の分析（1）							
9	構音の聴取・誤り音の分析（2）							
10	構音の評価、観察・分析							
11	機能性構音障害の訓練法（1）							
12	機能性構音障害の訓練法（2）							
13	訓練プログラムの立案（1）							
14	訓練プログラムの立案（2）							
15	家族指導							
16	ディサースリアの定義と分類、病変、運動障害のタイプ							
17	運動の要素、運動麻痺、運動失調、不随運動							
18	反射、原因疾患、脳血管障害、球麻痺、感覚障害							
19	関連症候							
20	構音の評価（1）タイプ別の呼吸・発声・構音特徴							
21	構音の評価（2）構音検査、発声発語器官検査							
22	構音の評価（3）プロソディー検査、随意運動検査							
23	構音の評価（4）機能検査、反射検査、その他の検査							
24	構音検査演習							
25	リハビリテーションと医学的治療							
26	訓練：呼吸、発声、構音各側面に対するアプローチ							
27	評価・問題点の抽出・訓練プログラム立案							
28	訓練プログラム立案（2）							
29	コミュニケーション補償、AAC、装具・補助機器など							
30	まとめ							
【 準備学習・時間外学習 】								
【 使用テキスト 】								
書籍名			著者名			出版社		
AMS D標準ディサースリア検査 検査法(記録用紙5部入) 新装版						千葉テストセンター		
ディサースリアの基礎と臨床第3巻臨床実用編						インテルナ出版		
ディサースリア 臨床標準テキスト						医歯薬出版株式会社		
【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】								
試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								